



# 二宮尊徳先生

光藤泰次郎

一、模範的人物 私に常に申して居ります、東京を中心として、之に隣接する三縣、千葉、埼玉、神奈川の三縣に於て、若し模範的人物を求めましたら、明治の今日は措いて問はず、徳川時代に於ては、千葉縣では伊能忠敬先生であります。埼玉縣では塙保己一先生であります。そして神奈川縣ではここに申しのべやうとする二宮尊徳先生であります。この三人の大人物は何れも傑出した所があつて、吾々の模範とすべき點があつて、各自縣の人には勿論、苟も日本人たる以上は皆夫々其の事蹟を研究して、感化を受けて然るべきであらうと思ひます。

二、平民的大偉人 伊能先生と塙先生とは、またいふべき機會があらうから、他日に譲るとして、こゝには神奈川縣より崛起して、幾多の廢家を興復し、廢村を興復し、其の遺教は今日なほ十分生命を有するのみならず、なほ益々世人を教化し感化しつゝ、ある所の二宮先生に就て語らうと思ひます。二宮先生の傳記を読んで見ますと、先生が彼のやうに大偉人になられたのは、先生の天稟にすぎれた所があつて、その上に困難貧苦が良教師となつた爲であらうと思ひます。誰も其の外に先生を教育したものはないのであります。言ひかへて見ますと、先生自身が己を教育したのと、天然の人に對する壓迫とか先生を教育したのであります。孟子に文王なくして興るものは豪傑であるとかいてあつたやうだが、先生の如きは獨力を以て崛起した豪傑、平民的大偉人というて差支なからうと思ひます。

三、先生の誕生地柏山村 二宮尊徳先生は、天明七年の七月二十三日相模國足柄上郡柏山村に生れました。柏山村今は新村櫻井村の大字であつ

て、國府津より約二里、小田原より約一里の北方酒匂川の西方にありませす。先生生誕の家は、もはや残つては居りませせん、其の家のあつた地は、叔父萬兵衛の子孫の所有地となつて、桑畑となつて居るそうでありませす。先生のお父さんは二宮利右衛門といつて、餘程好人物のやうであつたやうです。お母さんの名はわかりませせんが、足柄上郡曾我別所村川窪某の女でありませす。二宮氏の祖先は曾我氏であるといふとである。柏山村及びその附近に二宮を名のるもの昔は十四家、今は十六家ありしか。總本家は二宮長太郎氏として、家道なかなか盛えて居るといふとである。

四、先生の家庭 傳へる所によると先生の祖父銀右衛門は、常に節儉を守り、家業に力を盡くし、頗る富有を致されたといふとである。して見ると二宮先生の勤勉、力行なる性格は或は祖父より遺傳されたのかも知れない。父の利右衛門は村の人が善人といふたとの事、村の人が請ふまゝに或は施したり、或は貸し與へたりして、數年のうちに家産をへらし、積み貯へてあつた資財を悉くなく

して、貧窮に迫つた。けれども利右衛門は其の貧苦に甘んじて、昔し貸したものをや、施したもののから、恩がへしをして貰ふを思はなかつたといふ傳へがある。して見ると村の人が善人といつたのは尤の次第であつて、二宮先生の慈善的性質は、此の父なる人の性格を遺傳せられたものであらうと思はれる。之を要するに、先生が勤勞といふとを非常に重んぜられて、之を實行し之を主張せられたが、此の方面は祖父銀右衛門よりの遺傳であらうかと思はれ、先生が推讓報徳等慈善的の行爲性格は父利右衛門よりの遺傳であらうかと思はれる。

五、天然の壓迫 先生の兄弟は、先生を頭として三人兄弟であつた。貧困に迫つてからの三人の子供で、父利右衛門母某の艱難辛苦は一通りでなかつたらうと想像せられる。唯さへ困苦し缺乏して居るのに、天は茲に一大不幸を二宮先生の家に下した。非常なる壓迫を先生の家に加へた。それは何であるかといふに、外でもない、先生が僅に五歳の時のとであるから、丁度寛政三年のとである

柏山村の東の方を流れて居る酒匂川が、大雨のため、洪水が汎濫し、堤防を破つて、數ヶ村を流亡させた事である。これがために利右衛門の田地畑最早澤山もなかつたのであるが、一畝も残らず悉く石河原となつてしまつた。此の天然の壓迫に抵抗しながら、子供を養はれた利右衛門夫婦の苦心はどれ程であつたらうか、先生は幼いながら天然の壓迫のどんなに殘酷なものであるか、實物の教訓を受けられた事であらうと思はれる。それから生活の苦しい事や、父母が難儀のうちに子供を養はれる其の苦心を體得された事であらうと思はれる。先生の高弟富田高慶氏のかゝれたものによつて見ると、先生修身話が此の事に及ぶと必ず涙を流して、父母の天恩限りなきことを説かれた。これを聞くも、皆袖をうるはしたとの事だ。五、活きた教訓、至誠の化身 世話にくだいていへば貧の盗みといふ、漢語で六かしくいへば、小人窮すれば竝に濫すといふやうに、恒心あるものでなければ、貧乏して立派な行爲は出來がたい。ついでに腹はかへられぬとさもしい心を起し、さ

もしい行を爲し易い。君子でない以上には窮しても決して濫せざるといふ行は出來にくいのであらうと思はれる。二宮先生の父利右衛門は流石に二宮先生のお父さんたけあつて、なかなか立派な心掛を持つて居られた。恒産は不幸にして失はれたけれども、恒心は決して失はれなかつた。身外の寶はなくされたけれども、心の寶は決してなくされなかつた。茲に先生の父利右衛門が至誠の化身であつて、先生に生きた教訓を與へられた一例をあげて見やう。いつの年であつたか、父利右衛門が病氣にかゝり、醫者に見て貰つて幸になほつたけれども、藥の代にあつべき物がない。そこで漸く丹精してもとのやうになつた田地をうつて金貳兩を得られた。祖先傳來の田地を賣るは不幸であるが、醫者の藥代は拂はねばならぬと、醫者の許りに往つて、藥禮を拂はれた。すると醫者は、あなたの家は貧乏だ、藥代はいらぬ。一體どうして此の金を儲けたかといふ。利右衛門が田地を賣り拂つたのだと答へると、其の醫者がいふには、私は藥代を貰はなくても困りはしない。あなたは田地

がなければ一層困られるに違ひないのだから、此の金で田地を受けもどすがよい。私の方への禮は心配するな、利右衛門はどうしても置かうとする。と醫者がいふには、それではあなたの家が、富んで来たら其の時に貰はう。今は持つて歸るがよいと、いふので、利右衛門は、それではと半分の金を残して禮とし、半分を持つて歸られた。二宮先生は、お父さんの歸りが遅いので、病後であるから心配して、門に出て待つて居られた。するとお父さんは、何だか知らず、大喜びて歸られた。先生はその喜びの譯をさかされると、醫者が誠に親切に義侠にいつて呉れるので、お前がたを養ふとが出来、それ故嬉しくてたまらないといはれた。

(未完)

幼稚園改善の方針

我國に於ける幼稚園改善の方針として文部當局者の語る所なりと云ふものを見るに幼稚園の改良にはあらで實は幼稚園の退歩なるこそ可笑しけれ。由來我國の教育思想は深く獨逸の教育思想に負ふ

所あり従つて獨逸の風潮とし云へば一も二もなく之を摸倣せんとする傾きあるは誠に慨嘆に堪えざる次第にして斯くては我國の學術は何れの時が獨立の域に達す可き。但し其記事が果して文部當局の意見なりや否やは確かならず。其全文は左の如し。

從來幼稚園は、勞働者又は貧困者の幼児にして、家庭に於ては到底完全なる教育を受ける能はざる者を收容し、父兄に代りて之が教育に任ずる所にして、現在歐米各國に於ける幼稚園發達の状態を觀るに、何れも此趣旨に依つて、益々完全なる發達を遂げつゝあり、例せば獨逸に於ける四十餘ヶ所の國民幼稚園、佛國の母親學校、英米、キングダーガーデン等幾多の幼稚園は、悉く勞働者貧困者等、下流社會の兒童を以て充たされ、中流以上のものは稀れにも見る能はざるなり、這は全く上流社會の兒童は、其の家庭に於て充分教育を受け得るを以て、教育上常に困難を感じつゝある下層社會の兒童を、入園せしむるの必要より來れる、當然の結果に外ならず、斯くてこそ一般社會の兒童に對し、平等に完全なる教育を施すことを得るなり、然るに觀て、我國現下の幼稚園なるものを見るに、其の設立の趣旨を誤れるもの、みにて、凡て中流社會以上の兒童を以て満たされ、下層社會の兒童は、全く入園すべからざるもの、如き状態を示せり、而して上流社會の兒童の多き結果は、概ね附添人を伴ふが故に、遂に幼稚園をして學校風を廢して家庭風に化せしめ、尙ほ進んで家族主義を發揮し、寧ろ幼兒の擁護を主とするの傾向を生じつゝあり、然れば今後の幼稚園は、中流以上の兒童よりも寧ろ下層社會の兒童を成るべく多く收容し、慈善的に貧困者或は勞働者の兒童に、完全なる教育を施すべしと云ふに負ふと云ふ。